

【症例要約および論文の作業予定】

- 2024/春：新 R3 はメンターの指導を受けて上記の作業を開始
- 2024/8 R3 と石黒が面談 要約の一部，Blue note 記載状況 面談のときに提出
- 2024/8/31 までに 遅くとも論文を投稿
- 2024/12/19 まで 症例要約をメンターに提出 返却と修正を反復
- 2025/1/14 まで 要約を利根川室長に提出 返却と修正を反復
- 2025/2/17 まで 要約を石黒に提出
提出は紙媒体，指導は対面式，1 回 1 時間以内
- 2025/3/31 症例要約を完成 誓約書に石黒が署名
- 2025/5 初旬までに論文受理証明を入手

症例要約記載上の注意

① 症例の選び方

- ☐ 実在しており，実際に担当した症例であること！！
担当チームに氏名があれば，主治医でなくても，途中で交代しても構わない
- ☐ 後輩と同じ症例でも一緒に診た症例なら合法だが，別々の書き方をすること（コピペ厳禁）
- ☐ 診療録（カルテ）に受験者が診療内容について記載していること
- ☐ 各分野の疾患は，一覧表に従う。指定疾患に注意
- ☐ 初期研修期間の症例（卒後 2 年）は×
- ☐ 10 の各分野に異なる疾患が少なくとも 2 症例
- ☐ 外来症例は 3 症例までよい，他は入院患者

◎ 形式を守る，ルールを守る 様式は統一 細部まで目を光らせる

● 症例要約の必須記載事項 各 2 点，10 点満点で評価

- (1) 要約の簡潔さ
- (2) 診断のアプローチ，臨床判断 【鑑別診断】必須 【症例の問題点】
染色体の項目，Down 症候群＋肺炎
鑑別，説明も含めて肺炎ばかりの記載 これは大きく減点または受験不可
- (3) 治療の適切さ
- (4) インフォームドコンセント(倫理的配慮)
『以上家族へ説明し同意を得た』or『以上説明し同意を得て治療開始した』
説明しただけは× 段落の最後を書くと採点上有利
- (5) 転帰と退院後の具体的な指導(患者および家族) 【家族への説明】【退院後の経過】

- コピペを疑われることは厳禁！！ 異なる字体（ゴシック，明朝） 大きさバラバラ
全角 μ と半角 μ また，ml と mL を混せて使う

● 減点項目チェックリスト

- | | |
|---|--------------|
| <input type="checkbox"/> 30 例未満 | 受験不可 |
| <input type="checkbox"/> 指定疾患が 0 例の分野がある | 受験不可 |
| <input type="checkbox"/> 各分野の症例が 0 例または 1 例 | 受験不可 |
| <input type="checkbox"/> 同一疾患が 2 症例 | 受験不可 or 大幅減点 |
| <input type="checkbox"/> 第 1 病名が要約と一覧表で不一致 | 大幅減点 |
| <input type="checkbox"/> 特定の年齢層（新生児など）に偏る | 大幅減点 |
| <input type="checkbox"/> 症例番号が分野番号順ではない | 大幅減点 |
| <input type="checkbox"/> 指定疾患に「レ」がない | 大幅減点 |
| <input type="checkbox"/> 不適当な分野 | 大幅減点 |
| <input type="checkbox"/> 記載漏れ(性別・転帰等) | |
| <input type="checkbox"/> 年齢表記：1 か月児までは生後日数，1 歳児までは月数を，2 歳児までは「1 歳何か月」 | |

【小児科専門医試験のお約束】

1. 字体と句読点は統一。「ゴシックと明朝」 「。と。」 「，と、」を混在させない。コピーを疑われる。
2. 人名は原語 二人のときはハイフンで結ぶ
(例：×アプガール→○ Apgar スコア，×ファロー四徴症→○ Fallot 四徴症，○ Gram 染色)
(例：× Chédiak higashi → ○ Chédiak-Higashi 症候群)
3. 正確な綴り 例：Chédiak-Higashi 症候群（二人をハイフンで結ぶ），Sjögren 症候群
△ Henoch-Schönlein 紫斑病 → ○ IgA 血管炎
4. 検査：○検査とする。×エコー → ○ 超音波検査，×レントゲン写真 → ○ X線検査
×採血を行う → ○ 血液検査を行う。
5. 動植物名はカタカナとする（イヌ，サル，ヒト，サクラなど）
6. 年齢別の呼称
4 週未満： 新生児（性別に特別な意味がある場合のみ，男児，女児）
4 週～1 歳未満： 乳児（性別に特別な意味がある場合のみ，男児，女児）
1～12 歳： 男児，女児
13～18 歳： 男子，女子
19 歳以上： 男性，女性
7. 月齢 ×6 ケ月，6 カ月 → ○ 6 か月
8. 年齢 ×15 才男子 → ○ 15 歳の男子
9. A と B が → A と B とが。 A, B, C が → A, B および C が
10. ×～週間前より → ○ ～週前から （“より” は比較の時に使う。“間” は省略する）
11. 無念などの感情的表現はふさわしくない

日本語記載の原則

症例要約も論文も共通

【常識】

1. 段落の文頭は全角空ける。半角（）の前後は必ず半角空ける。半角カンマ，半角ハイフン，半角コロン，半角セミコロンの後は必ず半角空ける。半角カンマの前には半角は決して空けない。
2. 主語は統一すること。医者は，または，患者は。日本語では主語は往々にして省くが，常に意識すること。バラバラの人があまりに多い。
3. 体言止めの連用は下品。できるだけ文章にすること。
4. 助詞抜きも不可。
 - ① 例) 生後心房中隔欠損症指摘 → 生後，心房中隔欠損症と指摘された。
 1. 救急外来受診，気管支炎及び気管支喘息発作の診断で加療目的入院。
 2. → 救急外来を受診し，気管支炎および気管支喘息発作と診断されて加療目的に入院した。
5. 周知されていない略語は，初出時に必ず spell out する。日本語でもかまわない。
6. 薬物名は ×商品名 → ○ 一般名 英字の先頭は小文字
7. 薬物は「～薬」とし，「～剤」ではない。×抗生剤 → ○ 抗菌薬 (例：利尿薬，強心薬)
8. 細菌名などの学名にラテン語を使うときはイタリック 例) *Escherichia coli*
9. 遺伝子名もイタリック
10. 数値と単位間は半角空ける
(例：10 kg, 0.1 mg, mL など，ただし “%”，“°C”，“∞” は通常は空けない)
万の前は半角空けない。
11. WBC 7,680/ μ L, NH₃ 95 μ g/dl のマイクロは半角 (英語字体)。全角と混在させない。
12. NH₃, SpO₂ 下付きを用いる。
13. HCO₃⁻ 3 は下付き，マイナスは上付き。
14. ×FiO₂ → FiO₂ を 大文字 I は下付き。
15. pH は p が小文字，H が大文字，逆ではない。
16. 「がん」：悪性腫瘍全体を指す。「癌」 上皮由来のがんに限定
17. かな表記するもの
いったん，いまだ，いる，おそれ，かつ，きたす，ころ，ごとに，
すぎない，すべて，ただし，ために，つかむ，できる，とおり

12. 「奇形」についての暫定的推奨：「先天異常」「形成異常」「先天性〇疾患」
症状については「変質徴候」
13. 「痙攣」→ けいれん。
14. 現症の記載順：身長，体重，体温，呼吸数，脈拍，血圧
15. 検査の記載順：血液，血清生化学，尿
16. 静脈血液ガス 特異的な結果がない場合は pH や pCO_2 は不要。lactate は，静脈血では駆血のみで上昇するので，代謝疾患以外では不要